

せせらぎ 11月号

11月の映画会

『荒野にて』

上映時間 122分
11月27日(土) 午後2時から
筑西市立中央図書館 視聴覚室

父親と二人暮らしのチャーリーは、厩舎のオーナーから競走馬ピートの世話を頼まれる。騎手のボニーに馬を愛さないよう忠告されるが、ピートはチャーリーが唯一心を許せる存在だった。ある日、レースに惨敗したピートがお払い箱にされると知ったチャーリーは、ピートを乗せたトラックを盗み逃走する。チャーリーは孤独を抱きしめ、愛と居場所を求めてひたすら前に進んでいくが…。天涯孤独な少年チャーリーと走れなくなった競走馬ピートのロードムービー。

- **事前申込制(先着順・定員 25名)**となります ※11/2(火)より受付開始
中央図書館カウンターまたはお電話(☎0296-24-3530)でお申し込みください。
- 換気のため、会場の入口や窓の一部を開放します。通常より画面が見つらくなる場合があります。
- ご鑑賞の際は必ずマスクを着用し、入退館の前に手洗いや手指消毒を行ってください。
- 発熱や咳・のどの痛みなどの症状がみられる方のご参加は、固くお断りいたします。
- 感染症の発生状況により、中止となる場合があります。予めご了承ください。



憧れ

職場体験にきた学生が寄稿
してくれました。

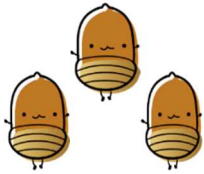
水戸聾学校 高等部二年 吉水 聡美 さん

「司書」。これが私の憧れ続けていた仕事だ。小学校低学年の時、図書室に行くといつもいる委員の人がカウンターで「ピッ」とやっていくのに強い憧れを抱いたからである。しかし五年生の時、図書委員会に入れなかった。小学校生活の中で憧れの仕事を掴むことはできなかった。

そしてついに五年がたった今、現場実習としてこの図書館で実習をさせて頂くということになった。憧れの仕事もできると、初日は胸を弾ませて出勤した。

しかしそう簡単ではなかった。接客が苦手だった私は緊張で声が出なくなってしまった。その時は自分で満足できる仕事はできなかったが、職場の方のフォローが速く、申し訳ないと思う気持ちの傍らに安心があった。

私の夢はまだはっきりと決まっていないが、接客という項目は決まっている。この実習を通して、接客のニガテ意識をなくす必要があると思った。そして、またこの仕事をやりたいと思った。



ノーベル賞とモネ：「あの日」の後で



文：中央図書館スタッフ M

眞鍋淑郎さんがノーベル物理学賞を受賞されました。気象学分野では初の受賞です。大気中の二酸化炭素の増大と気温上昇とのあいだに因果関係があることを、コンピュータ・シミュレーションによって解明したことが受賞理由となったようです。いまでは、小学生でも知っているような事実を日本人が50年以上前に明らかにしていたことに驚きを禁じえませんでした。

現在、NHKの連続テレビ小説では気象予報士を主人公とした『おかえりモネ』が放映されています。近年、気象学が再び注目を集めているようです。気象学とは過去の気象事項を分析し、「データ」として抽出・集積することで、未来に「起こりえる」大惨事を「予防」する学問のこと。いわば、「あの日」の失敗から学び、「起こりえる」未来に向けて備える営みこそが気象学にはかたまりません。

2011年3月11日の「あの日」、多くの人びとのトラウマとなった東日本大震災が発生しました。現代の私たちは「あの日」から何を学び、何を未来へと継承していくべきでしょうか。『おかえりモネ』が描くのは、そのような「あの日」の後を生きる日本人の姿です。『おかえりモネ』をみて、「あの日」を思い出した方は多いでしょう。個人的には、主人公のモネが地元の漁師たちに向けて「起こりえる」災害を必死に訴えるシーンが印象的でした。モネが気象学に基づいて提供した「データ」を、地元の漁師たちは「経験と勘」を理由に退けます。あのシーンから感じたことは、科学が提示する「データ」を「信じる」のは、最終的には人間の側に委ねられているということ。気象学の「データ」はあくまでも未来に「起こりえる」災害の確率でしかありません。しかしながら、大災害が「起こりえる」可能性を「信じる」ことによって始めて、未来に向けた「予防」の確率が増大するのです。『おかえりモネ』の漁師たちも最終的には「データ」（＝モネ）を「信じる」ことによって、危機を回避することができました。自然という「脅威」に対峙する私たちができることは「データ」を「信じる」こと、そして最後には、モネが述懐していたように、被害が最小限に抑えられるように「祈る」ことにあるといえるでしょう。

『おかえりモネ』の世界は現在のコロナウイルスをめぐる状況とも通底しています。コロナウイルスを「脅威」と考え、科学的な「データ」を提示する人びとがいる一方で、コロナウイルスを「ただの風邪」と決めつけ、生命よりも経済活動を優先する人びとが他方で存在します。「信じるか信じないかはあなた次第」。どれだけ科学が発展しようとも、最終的に重要となるのは「信じる」という人間の心性だということを『おかえりモネ』は見事に描き出していたように思います。

【参考文献】

ジャン＝ピエール・デュプイ『ありえないことが現実になるとき』桑田光平訳、筑摩書房、2012年。

『カタストロフからの哲学』渡名喜庸哲・森元庸介編、似文社、2015年。

図書館の情報は
こちら！！

図書館 Twitter 図書館ホームページ



筑西市立中央図書館

〒308-0826 茨城県筑西市下岡崎 1-11-1

Tel : 0296-24-3530

11月の休館日：11/1、11/8、11/15、11/22、
11/29（すべて月曜日）